談話室

中国との研究交流雑感

昨年10月約10年ぶりに北京を訪問した。壮大なスケールで開催された北京オリンピックが終了した後の北京の空はどうなのかと思っていたが，引き続き交通制限等をしているせいか澄んだ青い空であった。

今回の訪中の主な目的は，農中総研が中国農業大学に開設した寄付講座の開講セレモニーへの出席と農政関係や研究機関の方々への表敬訪問である。

農中総研と中国の政府機関および研究機関との交流は，1998年に農林中金北京事務所が開設されたことを機に始まった。そして，その翌年から北京において中国の研究者および政府関係者を対象に，日本の農協，農業，農政等を紹介する「北京セミナー」を毎年開催してきた。これは，農業部門における日中関係者の交流と相互理解に貢献しようとするものであったが，その目的は十分に達せられ相互の信頼関係構築に大いに役立ったと言えよう。

2006年には，農中総研，中国農業大学中国農村政策研究センターおよび国務院発展研究センター農村経済研究部の３者間で共同研究に取り組むことを合意した。これは従来の取組みをさらに発展・強化させ，農村金融および協同組合に関する共同研究，研究成果・情報・意見の交換等を行おうとするものである。

中国においては都市と農村との格差が拡大するなかでのいわゆる「三農問題」の解決が最大の政策課題となっているが，そのなかで農民への適切な資金供給の仕組み作りも極めて大きな課題で，日本の農業・農村金融についての農協の仕組みと役割，制度資金等の政策金融や政府の支援等についての関心が大変高まっていた。

共同研究の第１期の取組みとして，①農村金融に関する行政担当者および研究者向けの集中セミナー，②中国農村信用合作社の現地調査，③日本における農業農村金融についての現地調査および研修，を実施することとしたが，予定通りの進捗をみている。これまでに本誌においてその研究成果の一部が紹介されている。

今回開設した中国農業大学への寄付講座も共同研究の発展拡充の一環として位置づけられ，初年度は，世界的に危機的な食料問題への対応が喫緊の課題となっていることから「世界の食料安全保障」をメインテーマとし，中国の研究者のほか日本やカナダ，米国の研究者などを講師として招聘する予定である。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。

われわれが北京を訪問していた丁度その時開催されていた中国共産党第17期中央委員会第３回総会(17期３中全会)において「農村改革・発展の推進における若干の重大な問題に関する党中央の決定」という重大な政策が採択され公表された。

今回の17期３中全会は1978年に鄧小平氏が「改革開放」政策を打ち出してから30年目の節目に当たる。この改革開放政策のもと，中国は外国企業の技術と資本を積極的に取り込み輸出主導型の製造業を育成し「世界の工場」と呼ばれるまでになった。農業面では人民公社制度から家族請負制度への転換がなされ，これが農民の生産意欲を刺激し穀物の大増産により13億人の人口を養えるようになった。しかし，経済成長を最優先した結果，中国は困難な問題に直面することとなった。

ひとつは都市と農村の所得をはじめ教育，医療，年金等の格差問題である。農家１人当たりの所得は都市住民のわずか３割に過ぎず，この格差は改革解放以降最大となっている。

そして農地問題である。都市化と工業化の急速な進展による農地を巡る集団抗議事件が近年多発し，中国の社会安定を脅かす大きな課題のひとつとなっているが，これは弱い農民からの強制的な土地の収用や低い補償金等が原因とみられる。また，非農業への農地の転用により耕地面積は年々減少を続けている。さらに，農地の請負期間(現行30年)の期間延長問題もある。

17期３中全会では，農地問題を含めた農民の権利保護や生活水準の向上がなければ中国の将来はないとの危機感のもとに，改めて「三農問題」の解決に向けた政府の確固とした姿勢を今般内外に明らかにしたものと捉える事が出来よう。具体的な施策については詳述を割愛するが，土地請負制度の安定性の維持と土地請負経営権の永久化及び農民の権利保護，食糧自給に最低必要な耕地面積１億2000万haの堅持，都市住民と同じような義務教育や医療，年金などの社会福祉制度の適用等が注目される。また金融については「近代的農村金融制度の確立」とする項立てをし，「農村金融は近代的農村経済の核心である」と位置づけ農村の金融体制を革新するとしている。

2020年までの達成を目標にしているが，その動向には世界の耳目が集まっている。われわれとしては，共存共栄の精神で日中農業部門の交流と相互理解を一層深め，共同研究の成果がこの農業改革に少しでも寄与できればと考えている次第である。改革の成功を祈りたい。

((株)農林中金総合研究所　代表取締役社長　佐藤純二・さとうじゅんじ)

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。